



羣書一覽

三





群書一覽卷之三

物語類

竹取物語

二卷

みづき物語しるものごとくはめりおきし源氏に  
 竹取の翁のついでに竹のやうな女を養育し家畜さうな  
 大女を登天せしむけりけりけりけりけりけりけり  
 此は八萬葉集第十六卷に竹取の公羽九箇の神女  
 といふものなり。○其沖の河社も竹の中なる  
 内外典より宝樓閣經不空三藏譯弘法大師將來第一の佛  
 言乃住古昔到有仙人時彼仙人得法歡喜心生踊躍於其  
 住處便捨身命所捨身猶如生酥消融入地即於沒處而生竹  
 為葉七宝為根其竹生長十月則自剖裂各於竹内生一童



牽舟文庫



刊のせて中尾直長がぶらりしつもの今世の板ずい巻の尾  
たきうらうのたきもぶらりしつもの今世の板ずい巻の尾  
まきあひのたきもぶらりしつもの今世の板ずい巻の尾

才一 後蔭

才二並 花系君

才三並 たかこり

才四 梅の花さし 一名春日まき

才五 暖帳の役

才六 吹上の子

才七 吹上の子

才八 糸乃つみ

才九 菊の宴

才十 あてま

才十一 初秋 一名とまらひ名目 一名さまひの節季

才十三 藏のつみ

才十二 たけのつみ

才十五 花乃つみ

才十四 花乃つみ

才十七 梅乃つみ

才十六 梅乃つみ

才十九 水乃つみ

才十八 水乃つみ

才二十 國乃つみ

かたは……合せて二十巻なり……  
らきの下……さきの巻は……  
ゆゑの……梅乃つみの巻は……  
才乃つみ……梅乃つみの巻は……  
らきの下……合せて二十巻なり……  
ト……梅乃つみの巻は……  
ゆゑの……梅乃つみの巻は……  
才乃つみ……梅乃つみの巻は……  
らきの下……合せて二十巻なり……  
ト……梅乃つみの巻は……  
ゆゑの……梅乃つみの巻は……  
才乃つみ……梅乃つみの巻は……  
らきの下……合せて二十巻なり……

宇津保物語俊蔭卷 三卷

物語のつらけぬ故に... 別刻のつらけぬ故に... 宇津保物語俊蔭卷 三卷... 別刻のつらけぬ故に... 宇津保物語俊蔭卷 三卷... 別刻のつらけぬ故に...

濱松中納言物語 四卷

作者のつらけぬ故に... 濱松中納言物語 四卷... 作者のつらけぬ故に... 濱松中納言物語 四卷... 作者のつらけぬ故に...

住吉物語

二卷 三本

他者のつらけぬ故に... 住吉物語 二卷 三本... 他者のつらけぬ故に... 住吉物語 二卷 三本... 他者のつらけぬ故に...

伊勢物語

二卷

此物語作者のよしありし伊勢の師よりして業平と題するものも  
 もたげ證しすといふは古書に引ひつゝの考へにゆゆしが難しすとも業平の  
 自記に引ひつゝの書けりといふは証あるはなしなりけり  
 ○契沖に此伊勢物語は左業平の一生の物語なりと題するもの  
 ん并し他者古来不明の説なり一定家て奥書に古事口傳而可信又  
 ち上古之人強不可尋其作者唯可觀詞花言葉而已又此詞肝要なり  
 尤是より引ひつゝの考へにゆゆしが難しすとも業平の  
 百首は左業平の池田の歌なり

いせなるはといふは伊勢の人のいふにせむるは伊勢の人の  
 めいといふは伊勢の人のいふにせむるは伊勢の人の  
 めいといふは伊勢の人のいふにせむるは伊勢の人の

もの見えりしははとらふは伊勢の人のいふにせむるは伊勢の人の  
 伊勢物語の伊勢の人のいふにせむるは伊勢の人の  
 伊勢物語の伊勢の人のいふにせむるは伊勢の人の  
 伊勢物語の伊勢の人のいふにせむるは伊勢の人の  
 伊勢物語の伊勢の人のいふにせむるは伊勢の人の  
 伊勢物語の伊勢の人のいふにせむるは伊勢の人の  
 伊勢物語の伊勢の人のいふにせむるは伊勢の人の

の次序はたがひなく... 親子兄弟の... 昔の... 今昔... 西行... 宗長... 道遠... 宗長... 道遠... 宗長... 道遠...

本取用捨也... 此物語古人之説... 武田... 伊豆... 宗長... 道遠... 宗長... 道遠... 宗長... 道遠...

宗長... 道遠... 宗長... 道遠... 宗長... 道遠... 宗長... 道遠... 宗長... 道遠... 宗長... 道遠... 宗長... 道遠... 宗長... 道遠...





代の末の... 親の... 紐雅... 証者の... 夫... 氏... 本居宣長... 親王の... 眞... 後... 東... 指之血... 周... 若...

周... 若... 指之血... 後... 東... 親王の... 眞... 後... 東... 指之血... 周... 若... 縣... の... 夫... 氏... 本居宣長... 親王の... 眞... 後... 東... 指之血... 周... 若...



これらに... 者仁逢有... ぬ今世の俗言の... づら... づら... づら...

伊勢物語體 寫本

これらに... 萬象五の四神... 一條後園の思えお... づら... づら... づら...

伊勢物語抄 寫本 十卷

此音小町ハ如意輪觀音の化身... 定家... 影... 切... せ... カ... く信用す... 伊勢物語思見抄 五卷 一條兼良公 卷首は知弘集の体...

のせしむりかの備 業平の御付が御書なりと云ふは 卷末に代  
実録の業平の御付 定家御備中の御書なり。○此は花園院長祿  
四年(成徳)御書集の御書なり。○寛文十二年三月刊行

伊勢物語宗祇抄

一卷二本 宗祇法師

伊勢物語宗祇抄 記しつる書なり。此は母者延徳初は州山口  
にあり。伊勢の海老の御初めのもろ。○寛文八年(享和)城春意(享和)の序なり。

伊勢物語准清抄

写本 一卷 舟橋宗元

外記舟橋宗元 軒宗元 西と條道遠は及より相付の御書なり。

伊勢物語尙書抄

写本 二卷 釋小月柏

伊勢物語尙書抄 尙書抄 尙書抄 尙書抄 尙書抄 尙書抄 尙書抄 尙書抄 尙書抄 尙書抄 尙書抄

伊勢物語關疑抄

五卷 細川幽齋

中院也足軒素然の書なり。此關疑抄ハ幽齋老翁所作の御書なり。尙書抄  
長岡一ノ御書なり。慶長二年孟冬の跋。此御書の御書なり。○寛文八年(享和)城春意(享和)の序なり。  
惟法抄と云ふ御書なり。即ち伊勢物語と有餘不毛抄と云ふ御書なり。  
宗養紹巴の御書なり。○寛文十二年三月刊行。○此は母者延徳初は州山口  
にあり。伊勢の海老の御初めのもろ。○寛文八年(享和)城春意(享和)の序なり。  
伊勢物語尙書抄 尙書抄 尙書抄 尙書抄 尙書抄 尙書抄 尙書抄 尙書抄 尙書抄 尙書抄

春十五日... 伊勢物語難義註 享本 一卷

作者は... とも... 伊勢物語初冠

伊勢物語初冠

五卷

加藤繁齋

此書ハ關疑抄... 伊勢物語初冠... 伊勢物語初冠... 伊勢物語初冠...

伊勢物語集註

十二卷

一華堂切臨

平が自筆の... 伊勢物語集註... 伊勢物語集註... 伊勢物語集註...

此物語の新註ハ兼良公の愚見抄... 伊勢物語集註...



二条后... 彼もねれ人のあつたあけ... 和と... 批  
 把殿ハ承平ハ... 左大臣... 准... 誅...  
 の... 作者... 左大臣... 准... 誅...  
 后位ハ復... 勅命... 遠...  
 又... 伊勢... 同... 世...  
 ... 書ハ作者...  
 ... 謙退... 自記... 古今集... 業平の...  
 ... 似...  
 ... 家集日記...  
 ... 萬葉集の...  
 ... 相違の...  
 ... 准... 月... 諸人の...

位等... ぬ... 女... 四十九日...  
 の... 虚...  
 ... 五雜組...  
 ... 実録...  
 ... 業平の...  
 ... 三...  
 ... 上卷... 下卷...  
 ... 右勢語... 四卷... 其稿...  
 ... 一枝... 三卷... 乘... 釋契沖  
 伊勢物語童子問 写本 十三卷 荷田春満  
 卷首... 童子曰... 伊勢物語の註解...  
 ... 細川... 蘭疑...  
 ... 蘭疑抄... 童子の

同封詰けておけ一部はせう爾疑おのまやあらざるやとぞいけ  
かざらばハ古抄の行はぬにせうの徒とあはれはるるはるるは  
の同本とハ物伊の名及び他者の海りる古抄と最切の條と  
の條と並ぶるを一條の多しとぞいせのまらぬにせうの徒と  
とハ古抄の行はぬにせうの徒とあはれはるるはるるはるる  
とハ古抄の行はぬにせうの徒とあはれはるるはるるはるる  
伊勢物語古意 六卷 賀茂真淵

此書は古意に... 伊勢物語の古本今をハ他者の  
... 業平の自記... 伊勢物語の古本今をハ他者の...

あゝ男といふ... 野村遜志上田松成等... 附録  
... 一巻ハ松成... 國の海... 寛政...

伊勢物語章甫鈔

八卷 岨山春幸  
... 水尾院海歌のすち 九條下植通公  
... 貞任自筆 岡書 玄旨 爾疑抄 本吟 拾穗抄 牡丹花宵聞  
... 一条 禪閑 愚見抄 契沖 勢語臆断 等...

勢語 通写本  
... 五井純禎  
... 君臣父子朋友等の... 條... 條... 餘...



源氏物語

十一

め外篇

伊勢物語傍註

二卷

賀茂季鷹

かみけりりしは諸中の美田也  
くさくれげいりしは安永の書

大和物語

二卷

此物語作者の... 二条家の... 和歌... 定家... 竹... 西... 甲斐...

の... 母... 一条... せ... け... 自記... 備... 補... 花... 何... 説...

群書一覽 和書部三

菅見の... 十...

は花山院の... 皇太后宮懷子... 十月十日... 菅見の... 十...

兼盛... 花... 菅見... 十... 菅見の... 十...

和書部三



カ  
...田村成の序...寛政十一年上本

落久保物語頭書

四卷

加茂真淵

此書有天淵識記の筆記信夫某...寛政十一年...千産の序

落久保物語畧本

二卷

此書ハ万治二の刻...越後...一部的...此書の越中昔の長...一母の...二位の中...

源氏物語 五十四卷 紫式部

源氏物語...河海...太宰府...六月十五夜...罪障懺悔...光保氏...

春言一覽

廿

其部は式部がとらまはせりて周の旦居易れといつ所人  
在何言言相のたれやれりてきき書一ける部一其は次第  
書くといく五十四帖みまはりては後大納言の成ははせ  
させりては依りてのせんはは成りたる面白真意はとせ  
らぬ云此物語せば式部が作のしあひ老比立子候くそあ  
かりては減り君父の交仁義のた好まは嫌き提の縁りてさ  
これ何のせざりては其ともまはりての寓言にては  
の何の妖艶さりては比ぶる部れ中よ茶のらの何すも  
りてはあは若式部の名候りてはあて茶のたのいりては  
よは茶の部の名坐まはりてはあて茶のたのいりては  
りてはあて茶のたのいりてはあて茶のたのいりては  
まのてはあて茶のたのいりてはあて茶のたのいりては  
たすしりてはあて茶のたのいりてはあて茶のたのいりては  
かまはりてはあて茶のたのいりてはあて茶のたのいりては

月湖水よりわたり物性の風信やとて松のあつらひ佛あり大  
般若をらりてはあて茶のたのいりてはあて茶のたのいりては  
一部候てはあて茶のたのいりてはあて茶のたのいりては  
氏の左遷のし何書りてはあて茶のたのいりてはあて茶のたのいりては  
それ故はけ何の寛強れはあて茶のたのいりてはあて茶のたのいりては  
實りてはあて茶のたのいりてはあて茶のたのいりてはあて茶のたのいりては  
歌きりてはあて茶のたのいりてはあて茶のたのいりてはあて茶のたのいりては  
弘への能かりてはあて茶のたのいりてはあて茶のたのいりてはあて茶のたのいりては  
大敷と位とすはあて茶のたのいりてはあて茶のたのいりてはあて茶のたのいりては  
このてはあて茶のたのいりてはあて茶のたのいりてはあて茶のたのいりては  
これ終りてはあて茶のたのいりてはあて茶のたのいりてはあて茶のたのいりては  
大意候かりてはあて茶のたのいりてはあて茶のたのいりてはあて茶のたのいりては  
あて茶のたのいりてはあて茶のたのいりてはあて茶のたのいりてはあて茶のたのいりては  
常に候てはあて茶のたのいりてはあて茶のたのいりてはあて茶のたのいりては

群書一覽

和書部三

三十一











このものハ独学の成就としてのたゞカー一<sup>オウチ</sup>庸の任なくハ初撰集のやうにわかじれなふてハ千載集 新初撰集 後古今集 後拾遺集 新後古今集

- 一卷 桐壺一名壹前歌のよみ 二巻 草木 三巻 空蟬
- 併一 花散里 併一 夕顔 併一 若紫 併一 礼宴
- 併一 薄雲 併一 繪合 併一 関屋
- 併一 初音 併一 胡蝶 併一 常夏 併一 野分
- 併一 御幸 併一 蘭 併一 檳柱
- 併一 空蟬 併一 草木 併一 花散里 併一 夕顔 併一 若紫 併一 礼宴 併一 薄雲 併一 繪合 併一 関屋 併一 初音 併一 胡蝶 併一 常夏 併一 野分 併一 御幸 併一 蘭 併一 檳柱

- 七巻 柳 八巻 花散里
- 九巻 須磨 十巻 明石
- 十一巻 隠標 併一 産生
- 十二巻 繪合 十三巻 松風
- 十四巻 薄雲 十五巻 槿
- 十六巻 し女 十七巻 玉鬘
- 併一 初音 併一 常夏
- 併一 胡蝶 併一 野分
- 併一 御幸 併一 蘭 併一 檳柱

十八卷 梅枝 行ねるす 十九卷 藤裏葉 行ねるす

二十卷 若菜上下 行ねるす或は下巻松もろろり

廿一卷 柏木 行ねるす 廿二卷 横笛 行ねるす

并 鈴虫 行ねるす

廿三卷 夕霧 行ねるす 廿四卷 御法 行ねるす

廿五卷 幻 口上 廿六卷 雲隠

廿七卷 白宮 行ねるす或は兵部一名薰守

并一 紅梅 行ねるす 廿八卷 竹川 行ねるす

或は一名魚鳥

廿九卷 稚本 行ねるす

卅一卷 早蕨 口上 卅二卷 寄生 行ねるす

或は一名魚鳥

卅四卷 浮舟 口上 卅五卷 蜻蛉 行ねるす

卅六卷 手習 行ねるす 卅七卷 夢浮橋 行ねるす

のなるともわいも

け海おらつら

あゝあゝ

あゝあゝ

あゝあゝ

あゝあゝ

あゝあゝ

あゝあゝ

あゝあゝ

あゝあゝ

あゝあゝ

あゝあゝ

あゝあゝ

あゝあゝ

あゝあゝ

あゝあゝ

あゝあゝ

あゝあゝ

あゝあゝ

あゝあゝ

あゝあゝ

あゝあゝ

あゝあゝ

あゝあゝ

あゝあゝ

あゝあゝ



源氏物語の口付の事...  
ての明親は...  
源氏の...  
ての...  
ての...

河海抄 字本

二十卷

四辻善成公

此物語...  
乃末...  
か...  
監...  
か...  
の...  
よ...  
お...  
あ...  
ま...  
と...  
み...  
う...

和書部三

此物語一部の...  
乃末...  
か...  
監...  
か...  
の...  
よ...  
お...  
あ...  
ま...  
と...  
み...  
う...

かゝるものありしは、その海にあらざるに、  
つゝ、そのもの、そのもの、そのもの、  
出づる、そのもの、そのもの、  
○此書、毎巻の、そのもの、  
さうり、そのもの、そのもの、  
し、そのもの、そのもの、

卷第一 料簡 山卷、ハ物語の起すの、  
時代の、其原氏、  
勢、そのもの、そのもの、

相壺の巻、そのもの、  
卷第二十五 奥、そのもの、  
比、そのもの、そのもの、

其基を、そのもの、  
後、そのもの、そのもの、

○此書、そのもの、  
乃、そのもの、そのもの、  
○契、そのもの、そのもの、  
つ、そのもの、そのもの、  
か、そのもの、そのもの、  
ん、そのもの、そのもの、  
の、そのもの、そのもの、  
考、そのもの、そのもの、

六自神春頃、今至、  
此一句、  
○契、  
つ、  
か、  
ん、  
の、  
考、

文明十と、  
○契、  
つ、  
か、  
ん、  
の、  
考、







とんり

山あはれらのあはれかきかきめりうらのかきかき  
 ○幸山子開と云 右大の長親は名明魏耕雲と号す其沖河  
 物ゆふとくすの南のくく右大の太極言を信く又累代の人の  
 河北物のはの糸又明魏はかとして新しめりてはらかききりう又  
 つのちたすふね保お鼓を道春は下の野植は明魏はとれはあひあ  
 れちちやせく自由又書つてやまのたすけりてはらかききりう又  
 牛のつりりのあはれり今保保おの鼓と悉くは長親の設  
 二段もくくすり林氏お魏の設けりてはらかききりう又  
 鼓のくくすりうくくめはとあとまきりてはらかききりう又

源氏小鑑

二二巻 同上

巻首の物語祭起のり 准保のり 巻おけりかたおとす  
 産部あくと一人のく春ふか入内侍のり 女侍更衣等け名目のけ  
 りあうり以下ハ一部の大意くくく身かきりてはらかききりう又  
 ○此書ハ公方

源氏物語系圖

一卷

勝定院殿義持公(耕)老入進(皇)せりり記  
 勝定院殿義持公(耕)老入進(皇)せりり記

お倍一部の中よりくくくの系圖く奥の系圖よりくくく二百十  
 餘人別りてくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 候まく源氏君薫大將等け年海くく其次は清少納言作加巻く  
 名 橘人 菓守 八橋 ころが 花見 嵯峨野の上下  
 古物語名 伊勢 竹取 ころが 狭衣 正之位 隠篋  
 岩屋 唐守 頼姑射 大和 在系保春作或花山御製作  
 其次は源氏ねののりてとくくくくくくくくくくくくくくくく  
 以家加書言子者也 天文十九年六月日 桃花宋央判 ○刊中ハ湖月  
 抄頭書言等ハ附す

源氏物語系圖

一卷

系圖のくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 刊中ハ湖月抄頭書言等ハ附す



墮獄の所は、ゆゑは保民はてあはれん、ゆゑは保民なり、あはれん、  
けしき一節の表白ハ、一いつくも、命の雅嘉按ず、まゝの  
よ、興部、墮獄、若恵、人のまゝ、  
契沖いふ、わが考へん、  
臣の今、物、  
おめ、  
おら、  
が、  
ふ、  
よ、  
相、  
と、

源氏物語千鳥抄写本 二卷

跋、  
跡、  
源氏物語千鳥抄写本  
二卷

三年の秋、  
ひ、  
ま、  
づ、  
べ、  
覆、  
そ、  
應、  
附、  
白、  
地、  
令、  
合、  
下、  
天、  
下、  
天、  
下、  
天、  
下、  
天、  
下、  
天、  
下、

花鳥餘情写本

二十卷 一條兼良公

河海抄の、  
し、  
ら、  
こ、  
こ、  
ふ、



手三者愚身四代曩祖後成恩寺禪閣之述作也  
第とく〇此書も改書湖月抄等も附刻す  
桃花未葉 生年未詳

源氏和秘抄 写本

一卷 同上

物語の中より一しりり河津ものくねぶさなゆらのたぬり  
宝徳元年相月禪閣の假名の跡ら〇奥より右一帖者前関白相國  
一条殿の初心者所制作也

源語秘訣 写本

一卷 同上

此書ハ源氏物語の大十五箇條ありけり  
相壺巻 源氏衣服有せのり 夕顔巻 揚名のすけのり  
同巻 侍童の指貫のり 花宴巻 翁もほけぬおぬのり  
葵巻 大御うればはのり 同巻 おのゝふらふのり  
同巻 うらゝいさゝかのり 神巻 もののあゝのり  
明石巻 まかゝのり 薄雲巻 るるあはれはのり  
し女巻 しゝひのり 玉鬘巻 るるのくゝのり

初音巻 多カコビ  
藤裏巻 けいしんらうげ月のり

蝴蝶巻 しいまゝのり

不審抄出 写本 一卷 宗祇法師  
河海花鳥外は不審のり  
向合のちし

常木別註 写本 一卷 同上  
この下の巻ハ雨夜不定のり  
カカガ別ははせのり

弄花抄 写本 七巻十本 牡丹花宵柏  
河海抄花鳥餘情等のらやさうたが  
ら〇此書ハ通延院実隆公より牡丹花老人の閑書より  
克保氏年次 遊世相壺巻より五十二卷幻の巻ヤシ  
入薰十四卷

和書目録

三十一

白のけ老より松城の巻より此より白の巻以下混乱決小  
 浦の別れは松城より此より白の巻以下混乱決小  
 古来稱号の老の巻より此より白の巻以下混乱決小  
 又云同九年二月重如也又云肖柏也又云肖柏也又云肖柏也  
 三年春中八種玉受養主後合志之  
 不審向成是也後陶香や肖柏也又云肖柏也又云肖柏也  
 肖柏也又云肖柏也又云肖柏也又云肖柏也又云肖柏也  
 遊遊子等の奥也又云八月二条西入る内大臣 永正十六初冬  
 一年遊り三十九世他阿上人の假字の改り  
 一葉抄写本 十五卷十本 同上

才一 作者の時代の時代の諸が不同の  
 源流の准持の等代を以て其の  
 花

河一禪一攝 和名一二字はあり○奥書より右十五冊あり  
 存以り説宗祇禪師 弄花諸抄等之編之明應乙卯孟春仲し  
 肖柏  
 細流抄写本 二十卷 西三条公條公

此書も河海花名のりやう松城より此より白の巻以下混乱決小  
 内かもりす青表紙もりす一各別の中し耕やもりすのり  
 史記の考へて一各別の中し耕やもりすのり  
 の記もりす耕やもりすのり

明星抄 五十五卷廿本 西三条実澄公

此書ハ細流抄ハ祭端一巻抄也  
 祭端ハ諸が不同のりやう松城より此より白の巻以下混乱決小  
 殿作のりす朱墨也又云耕雲也又云耕雲也又云耕雲也  
 内かもりす青表紙もりす一各別の中し耕やもりすのり  
 史記の考へて一各別の中し耕やもりすのり  
 の記もりす耕やもりすのり

和書目録 三

みほりかてり初学はよりのよしに候へりなうりしれども候  
がうふ相違のゆゑとらうあひびきしりてみえ諸抄

奥入

伊行の作 伊行ハ行成の五代の宗孫定信のまじりて一初作一と  
まじりて伊行ハも同様に補作と傳へたる事

追注

定家の作 河原の中御言定家のまじりて此後  
はとて奥入の考すも一私定家の奥入ハ一考すも一根中

水原

大監河原老の作 老ハは河原氏身代物  
は河原氏の身代物といひははれし始とわすしは河内  
てんて河内方と稱すなほ河原の河内千載他者其ま本邦

紫明

素寂作

源中最秘抄

日上

源氏流

河海抄 廿卷 四辻善成公作

花より餘情

雨やりのり 正上は抄有るものなり

巻之一

庭訓平彼聴書詞短心不足更進可令外見不徒は去送抄

仲春十九日

又天文甲午曆千秋臣節終初年 聖之台都督即

孟津抄

九條禅因植通公

植通公

此書ハ河海花より余情の意趣

院殿

河原氏物伊行の作と稱名院殿は再向さぐねめ之先院

院殿

河原氏物伊行の作と稱名院殿は再向さぐねめ之先院

らうのいひのつづき... 取捨の旨と并花抄の事...  
 其よりなり... 毎回... 愚多... 黄河...  
 九曲の崑山... 銀河... 二皇... 仙術...  
 〇此書巻首は諸中不同... 巻末は真字の跋...  
 名院... 就く遊学の次第... 数十の工夫...  
 の外... 渉獵... 二十巻... 八十五...  
 林 逸抄 写本

五十四巻 二十六本 林宗二

巻首の物語の發起の古米称美の... 注釈...  
 鳥餘情休圃抄... 此冊書宗二方に齋之抄...  
 〇牡丹花前相... 原宗朝の人林和靖の齋...  
 四年... 建仁寺... 改め... 南都...  
 製す... 業... 宗二連歌... 源氏物語...  
 〇按... 林逸抄... 具...  
 源氏 紹巴抄 二十巻 里村紹巴





海防の設けらるゝに今案にもよゝては教せられたるに母  
 の府君言旨は下りてはゆめはたしてありよん念ひなりとの  
 へらまのたぢなかりはてしなくあはれなることありては  
 か一説のよめよとてあはれなることありてはすべからず  
 ろふれふりてはなるをみまのよめなりとてはすべからず  
 けちの成りてし題号ハ山谷の詩ハ岷江初盤鱗入楚乃魚底と  
 つゝ心はなかりはてしなくあはれなることありてはすべからず  
 巻ハ此歌を期へてつゝ心はなかりはてしなくあはれなることありては  
 してせしめし物なりとてつゝ心はなかりはてしなくあはれなることありては  
 も何底もするにぬれはてしなくあはれなることありてはすべからず  
 くりくはてしなくあはれなることありてはすべからず  
 つぎに中の九日也是の系抄にてはすべからず  
 幽齋真子の跋も是也足軒主素然老人以有識蒞之素燁運  
 隱陋邦丹之後州老人也種姓不凡才識高明是一時名流也

加補親炙ニ光内府勲侍講惟究此物語之奥旨依之就老  
 人求果余素願於是老人勿感其志老之諸抄錄者若或託  
 者之缺者補互有得失者兩存之十稔之間雪簞露抄畢五  
 十五帖可謂集大成也余乃題以岷江入楚矣云云○此書本文  
 のは五十四卷中云隱說一卷ハ海防諸抄ありてはすべからず  
 料紙半面十六帖ありてはすべからず  
 本伏見中よりつゝ心はなかりはてしなくあはれなることありては  
 源義辨抄  
 二十卷 一筆堂土切臨  
 三光院実澄公の講説の聞書なり巻首に源氏の徳を讃へてや  
 けつりて是の聞書なり唐土はいつてはすべからず  
 みはてしなくあはれなることありてはすべからず  
 ろふれふりてはなるをみまのよめなりとてはすべからず  
 けちの成りてし題号ハ山谷の詩ハ岷江初盤鱗入楚乃魚底と  
 つゝ心はなかりはてしなくあはれなることありてはすべからず  
 巻ハ此歌を期へてつゝ心はなかりはてしなくあはれなることありては  
 してせしめし物なりとてつゝ心はなかりはてしなくあはれなることありては  
 も何底もするにぬれはてしなくあはれなることありてはすべからず  
 くりくはてしなくあはれなることありてはすべからず  
 つぎに中の九日也是の系抄にてはすべからず  
 幽齋真子の跋も是也足軒主素然老人以有識蒞之素燁運  
 隱陋邦丹之後州老人也種姓不凡才識高明是一時名流也

源氏物語の祖は平家朝臣の御孫と云ふに云々  
甲は源氏物語の祖は平家朝臣の御孫と云ふに云々

源氏綱目

九卷 同上

自序云々先源氏物語の序帖と云ふに云々  
源氏物語の祖は平家朝臣の御孫と云ふに云々  
源氏物語の祖は平家朝臣の御孫と云ふに云々

源氏物語一部連歌可用詞

一卷 写本

撰者信長（？）すむ倍一部の中より連歌の句を採りて  
めとせせり

光源氏一部歌詞

写本 一卷

巻首の序文に云々物語の起る所を記し一部の序文を  
採りて採撰すは撰者信長と云ふに云々

源氏大概抄

一卷

一部の大意を採りて撰者信長と云ふに云々

源氏物語目次

七卷 二本

これハ源氏物語一部の中の目次を採りて撰者信長と云ふに云々

源氏物語引歌

一卷

これハ源氏物語の序文に云々古歌を採りて撰者信長と云ふに云々

群書一覽

和書部三

付くもの... 中京宣長... 河海... 引... 考... 万水... 露... 二十卷... 能登水南... 鳥丸... 作...

考... 引... 考... 万水... 露... 二十卷... 能登水南... 鳥丸... 作...

考... 引... 考... 万水... 露... 二十卷... 能登水南... 鳥丸... 作...



すねけん... 延宝五年刻すの或は... 源氏雲  
隠は六帖の法系之浦の化... 作者不詳明一条校勘の...  
一たよ... 集守ハ梅... 花...  
上下... 本吟雲... 五十四帖... 諸... 刺... 十帖ハ大... 止觀...

あま... 大臣... 源氏外傳... 五卷... 熊澤了芥

此書の... 源氏外傳... 熊澤了芥



〇此抄は五十四巻の系圖一卷年立一卷附十諸抄附一萬  
 〇此抄は題名ハ凡例ノ下先ヨリ其形如菴ハ九条宮ヨリ任  
 〇此抄ハ五十四巻ノ系圖一卷年立二巻表白一卷  
 〇此抄ハ五十四巻ノ系圖一卷年立二巻表白一卷

百書源氏物語 五十六巻  
 湖月抄 六十巻 北村季吟  
 雲隠説一卷 惣計六十巻  
 〇此抄ハ五十四巻ノ系圖一卷年立二巻表白一卷

相違二巻の傳記附すてハ物傳の口付多ク其ハ一カハ如菴老人  
 〇此抄ハ五十四巻ノ系圖一卷年立二巻表白一卷



和書目録

四十七

小寺 遠東の号なり。 吉野廣才の。 抄の余録 文は  
大意 抄の准抄 抄の時代の志 抄の述代の時代 抄の代  
梅号の。 抄号 先原氏抄の補する。 源氏の。 源氏の  
抄 抄の冊抄の。 卷は法。 諸中不同 諸抄 凡例  
巻は法なり。 抄の撰并の巻は。 ○抄の近きとこの傳は。 ○  
中括宜長之は秋は海抄不才一の。 抄の。 抄の。 抄の。 抄の。  
佛も。 抄の書。 抄の。 抄の。 抄の。 抄の。 抄の。 抄の。  
抄の。 抄の。 抄の。 抄の。 抄の。 抄の。 抄の。 抄の。  
抄の。 抄の。 抄の。 抄の。 抄の。 抄の。 抄の。 抄の。  
抄の。 抄の。 抄の。 抄の。 抄の。 抄の。 抄の。 抄の。  
抄の。 抄の。 抄の。 抄の。 抄の。 抄の。 抄の。 抄の。

抄の。 抄の。 抄の。 抄の。 抄の。 抄の。 抄の。 抄の。  
抄の。 抄の。 抄の。 抄の。 抄の。 抄の。 抄の。 抄の。  
抄の。 抄の。 抄の。 抄の。 抄の。 抄の。 抄の。 抄の。  
抄の。 抄の。 抄の。 抄の。 抄の。 抄の。 抄の。 抄の。  
抄の。 抄の。 抄の。 抄の。 抄の。 抄の。 抄の。 抄の。  
抄の。 抄の。 抄の。 抄の。 抄の。 抄の。 抄の。 抄の。  
抄の。 抄の。 抄の。 抄の。 抄の。 抄の。 抄の。 抄の。  
抄の。 抄の。 抄の。 抄の。 抄の。 抄の。 抄の。 抄の。

おのぶ草 写本 四巻 北村湖春

湖春の季吟の男が。 ○抄は。 ○抄は。 ○抄は。 ○抄は。 ○抄は。 ○抄は。 ○抄は。 ○抄は。  
抄の。 抄の。 抄の。 抄の。 抄の。 抄の。 抄の。 抄の。  
抄の。 抄の。 抄の。 抄の。 抄の。 抄の。 抄の。 抄の。  
抄の。 抄の。 抄の。 抄の。 抄の。 抄の。 抄の。 抄の。  
抄の。 抄の。 抄の。 抄の。 抄の。 抄の。 抄の。 抄の。  
抄の。 抄の。 抄の。 抄の。 抄の。 抄の。 抄の。 抄の。  
抄の。 抄の。 抄の。 抄の。 抄の。 抄の。 抄の。 抄の。  
抄の。 抄の。 抄の。 抄の。 抄の。 抄の。 抄の。 抄の。

和書目録 三

四十八



冬野斯寺の篇ハ后妃の位化(ハシ)一鄭儀のハ淫放(ハシ)ハ  
悪水火のホ(ハシ)但文章ノ方(ハシ)ハ鄭儀のハ(ハシ)ハ  
人ノハ(ハシ)ハ惡雜(ハシ)ハ(ハシ)ハ(ハシ)ハ  
才定家の(ハシ)ハ可然(ハシ)ハ言業(ハシ)ハ(ハシ)ハ  
おむ普通の假名(ハシ)ハ(ハシ)ハ(ハシ)ハ  
其た(ハシ)ハ(ハシ)ハ(ハシ)ハ(ハシ)ハ  
況(ハシ)ハ(ハシ)ハ(ハシ)ハ(ハシ)ハ

紫女七論 写本 一卷 安藤為章

魚鱗 作者、本意 一部大事 正傳説語なり 江戸年山先  
生伏見殿貞致親王の御館ニ依リ一討(ハシ)ハ物作(ハシ)ハ  
大輔冬仲(ハシ)ハ海法(ハシ)ハ(ハシ)ハ(ハシ)ハ  
通村(ハシ)ハ(ハシ)ハ(ハシ)ハ(ハシ)ハ  
中院(ハシ)ハ(ハシ)ハ(ハシ)ハ(ハシ)ハ

記權記左經記台記玉海玉葉明月記以下近き世に水記(ハシ)ハ  
百部(ハシ)ハ(ハシ)ハ(ハシ)ハ(ハシ)ハ  
紫女の(ハシ)ハ(ハシ)ハ(ハシ)ハ(ハシ)ハ  
志(ハシ)ハ(ハシ)ハ(ハシ)ハ(ハシ)ハ  
ね(ハシ)ハ(ハシ)ハ(ハシ)ハ(ハシ)ハ  
梶(ハシ)ハ(ハシ)ハ(ハシ)ハ(ハシ)ハ  
冲阿園利(ハシ)ハ(ハシ)ハ(ハシ)ハ(ハシ)ハ  
これ(ハシ)ハ(ハシ)ハ(ハシ)ハ(ハシ)ハ  
話(ハシ)ハ(ハシ)ハ(ハシ)ハ(ハシ)ハ  
ら(ハシ)ハ(ハシ)ハ(ハシ)ハ(ハシ)ハ  
一(ハシ)ハ(ハシ)ハ(ハシ)ハ(ハシ)ハ  
知(ハシ)ハ(ハシ)ハ(ハシ)ハ(ハシ)ハ

ハシ(ハシ)ハ(ハシ)ハ(ハシ)ハ(ハシ)ハ  
ハシ(ハシ)ハ(ハシ)ハ(ハシ)ハ(ハシ)ハ  
ハシ(ハシ)ハ(ハシ)ハ(ハシ)ハ(ハシ)ハ  
ハシ(ハシ)ハ(ハシ)ハ(ハシ)ハ(ハシ)ハ  
ハシ(ハシ)ハ(ハシ)ハ(ハシ)ハ(ハシ)ハ  
ハシ(ハシ)ハ(ハシ)ハ(ハシ)ハ(ハシ)ハ  
ハシ(ハシ)ハ(ハシ)ハ(ハシ)ハ(ハシ)ハ  
ハシ(ハシ)ハ(ハシ)ハ(ハシ)ハ(ハシ)ハ  
ハシ(ハシ)ハ(ハシ)ハ(ハシ)ハ(ハシ)ハ  
ハシ(ハシ)ハ(ハシ)ハ(ハシ)ハ(ハシ)ハ  
ハシ(ハシ)ハ(ハシ)ハ(ハシ)ハ(ハシ)ハ  
ハシ(ハシ)ハ(ハシ)ハ(ハシ)ハ(ハシ)ハ  
ハシ(ハシ)ハ(ハシ)ハ(ハシ)ハ(ハシ)ハ  
ハシ(ハシ)ハ(ハシ)ハ(ハシ)ハ(ハシ)ハ  
ハシ(ハシ)ハ(ハシ)ハ(ハシ)ハ(ハシ)ハ



紫文堂の轉

五卷

多賀釣醉子

物語のなつかし俗語よりの... 刊本と帖の... 首巻八摘趣

源氏男女装束抄

二卷

壺井鶴翁

源氏男女装束抄二卷ハ... 小心中連歌の宗碩の... 宗碩の... 依敷寺... 宗碩の... 康映原... 季秋板...

源氏物語歌

一卷

升平ハ源氏歌繼トシテ物語の... 七百九十餘首巻ハ

逸々〜んめあ〜んき〜ん名成防了実の宗本部一人の縁す〜  
ろろし○考ゆら代家より古物語のそけ採集入るなりといすと  
うや拾遺集一有るお時致

これの源氏物語の〜ん物語入るるもの〜ん伴の物語ハ  
宗致のそ不他〜ん〜ん今中入るるの〜ん  
のら〜んめれ〜んおれ〜んおら〜ん今案付おけ古  
中乃源氏〜んけ〜ん今代源氏〜ん〜ん〜ん重隠の巻め  
〜ん〜ん源氏〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん武部なご入る  
〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん  
〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん  
〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん  
〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん

けさ首〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん  
勅採集入るるた〜ん〜ん〜ん〜ん新拾遺集雑中の〜ん  
〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん  
〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん  
〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん

源語新編

十卷

川上静菴

雨夜物語

二卷

藤原宇方

此書は竹帚木の巻中雨夜の品定の〜ん〜ん〜ん〜ん  
〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん  
〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん  
〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん







のいひまはてはともけらるるせにならす。……  
かやれりたるや。……  
光孫氏の……  
……  
……  
……  
……  
……  
……  
……  
……  
……  
……  
……

### 狭衣系圖

一卷

道徳院實隆公

源氏ゆづりの系圖（か）……  
跋（き）……  
下（さ）……  
紐（ぢ）……

四卷

### 和泉式部物語

一卷

和泉式部

作者つづり……  
式部……  
……  
……  
……  
……  
……  
……  
……  
……  
……  
……

四卷

作者つづり……  
……  
……  
……  
……  
……  
……  
……  
……  
……  
……  
……

### 洋書一覽

和書部三



此書日本名八字活大納言物語よりしは書ものすれぬ語條なるよし  
 めの今やあらし書物せしむるに今昔物語と号せしむるに今  
 刊かハ井澤長秀のたのむくありしにありしに古家老より  
 二三巻ばかりひめりる代凡例をて書白り二十卷中比し  
 卷しす其六十卷ハ日本部二十卷 天竺部十五卷 震旦部十五  
 卷のより目錄なる

卷一より卷十一 世俗傳 卷十二より卷十五 怪異傳  
 卷十六より卷十九 惡行傳 卷廿より卷廿五 宿報傳  
 卷廿六より卷廿七 佛法傳 卷廿八より卷三十三 雜事傳  
 以上二十卷 日本の部既に刊行す

卷之五より卷五十五 天竺部 卷五十六より卷六十五 震旦部  
 以上二十卷をいして刊行せず○は書ものしらのめは古今著聞集宇治  
 拾遺等よりあつてしむるもの○は海と今昔八叶に於て見ゆるに  
 刊行のものなり

舊本今昔物語集 写本 廿九卷 同上

總目錄一卷 中書二十八卷 下く廿九卷 今全部片假字といふに  
 別な部柄刊行しは抄する文章のありしものよりすぬゆのさ  
 り數十箇條してて真中よりいへりしもの

第一卷 天竺 三十八條	第二卷 同 三十五條	第三卷 同 二十四條
第四卷 同 佛法四十一條	第五卷 同 佛法三十二條	第六卷 震旦 同四十八條
第七卷 同 同 四十條	第八卷 同 附孝養四十五條	第九卷 同 附國史 四十條
第十卷 本朝 附佛法廿條	第十卷 同 同 二十九條	第十二卷 同 同 二十四條
第十三卷 同 同 四十三條	第十四卷 同 同 五十四條	第十五卷 同 同 四十條
第十六卷 同 同 五十條	第十七卷 同 同 四十三條	第十八卷 同 同 四十六條
第十九卷 同 同 八條	第二十卷 同 同 十四條	第二十卷 同 同 五十七條
第二十二卷 同 世俗 十三條	第二十三卷 同 宿報 二十四條	第二十四卷 同 宿鬼 四十五條
第二十五卷 同 同 四十四條	第二十六卷 同 惡行 三十五條	第二十七卷 同 雜事 十四條
第二十八卷 同 同 三十七條		

目錄の末は語章合千二十段 原千丁敷合貳千九百十七枚と云ふ  
○第一卷天竺部のものめ 釋迦如来入界宿給語 第十卷本朝部  
のものとめ 聖徳太子於此朝始弘佛法語なり

宇治大納言物語

三卷

これより名小世継よりものし又一卷の刊本は世継物語と云ふ  
所なりしやち又同文なり○紫文要領に宇治大納言物語と云ふ  
ものもの仿他より真の隆國の物語なりと云ふなり

宇治拾遺物語

十五卷

系平ハ隆國の傳へ今昔物語は拾遺の刊本の序に云ふ  
治大納言物語の傳へものなり大納言ハ隆國より人と西の友の傳へ  
又大納言は此の男なり○五月より八月までハ平等院一切経藏の南の  
泉坊よりおもしろいなりと云ふなり

今昔物語は拾遺の刊本の序に云ふ  
治大納言物語の傳へものなり大納言ハ隆國より人と西の友の傳へ  
又大納言は此の男なり○五月より八月までハ平等院一切経藏の南の  
泉坊よりおもしろいなりと云ふなり

送物作... 和差別... 按す... 伴... 今昔物語... 其時文章... 四季物語

四季物語 写本

一卷

鴨長明

歌林四季物語

十二卷 四本

此書... 鴨の社... 春の部... 序文...

乃木の... 長明の... 此書... 依...

堤中納言物語 写本

十帖 二卷

友... 兼輔... 將利... 納言... 花... 毎帖...



紅葉物語 写本 六卷 蓮心處士  
これ他古より文正の頃かきて男女夫婦の間の物語なり初めつ  
たふやう巻はれ末は名もなき女の歌一首ありて蓮心處  
士何人かきしとあり

西山物語 二卷 建涼代山  
中古のゆかりの記日中紀万葉より餘り何事と云ふの由と  
いふことありて古徳のころかきしとあり

上巻 こころの巻 ころの巻 ねらの巻  
中巻 あやの巻 琴の巻 文の巻 ころの巻  
下巻 疾の巻 病の巻 けふの巻

明和五年二月金龍敬雄真字の序ありて同ふとあり  
吉野物語一名本朝水滸傳 十卷 九本 同上

吉野物語續編 写本 十卷 同上

刊中八第一條より第二十條まで何れもやうに六第二十一條より  
五十條までと載りて巻末は五十一條より七十條までの目  
録ありて〇梅子〇涼代山友人風月某と就て金聖王蘇評  
すふれ七十回の水滸傳なりて其に此物語の他あり  
しとありてその書の風約と模せり

草子類

枕草子

三卷

清少納言

昔ハ山ノ下ノ名ニシテハ  
 子ノケテ○題号タイゴ枕草子紙シノミ  
 カツ内ノミシケニテマ  
 八史記ヒノ文ズヲクニセ  
 ニヤ行ヤツキセテ紙ノ  
 代ノニイハナク伊周イ  
 世ノハ時后トキノ法ノ御言  
 記ノヤナリマシテカ  
 一紙ノミナシマシテ名  
 一カニテリシノミナシ  
 ○季吟日キノ紙シニイ



さういふ二冊或ハ二冊ハ五冊一巻  
致集は撰集原は物類等ハ定家等の撰也  
竹下松平紙より此の序中紙を承應二年の  
尾州より一本紙より上下二冊其紙紙  
考其入るる序中紙より承應二年の序中紙  
考其入るる序中紙より承應二年の序中紙  
往年所持之愚本紛失年久更借出而之本  
證本不散不審但管見之所及勘合舊記等註  
月等認案欣 安貞 季二月 老及愚心翁  
文明未之仲夏廣橋更櫻送實相院准后本下  
見示曰余書写所希也徽命并獲止馳承元毫  
切句此新寫讀而欲容易故此技之次加朱點  
權大納言藤原朝臣教秀 老及愚心翁

此作朱点ハ教秀マケル由真書のこと  
小の序中紙より一紙よりハの序中紙より  
右の序中紙より一紙よりハの序中紙より  
本に於て先達の用いたる序中の真書  
愚心翁者秀マケル由真書のこと  
一冊ハ松達子撰集於古今漢古今も  
仙言の致書ナクも序中紙の序中紙より  
おの序中紙より一紙よりハの序中紙より  
又基後の院目おの序中紙より一紙より  
よれり其の序中紙より一紙よりハの序中紙より  
一冊ハ季吟又曰或中より一紙よりハの序中紙より  
おの序中紙より一紙よりハの序中紙より



枕草子春曙抄

十二卷

北村季吟

卷首は法小納言の傳録 山室の抄 北村の抄 卷中の抄 延喜式  
 の抄 和歌の抄 古今の抄 古今の抄 古今の抄 古今の抄  
 西の抄 山室の抄 山室の抄 山室の抄 山室の抄 山室の抄  
 百寮訓要抄 百寮訓要抄 百寮訓要抄 百寮訓要抄 百寮訓要抄  
 の抄 百寮訓要抄 百寮訓要抄 百寮訓要抄 百寮訓要抄  
 官考系圖付 官考系圖付 官考系圖付 官考系圖付 官考系圖付  
 の抄 官考系圖付 官考系圖付 官考系圖付 官考系圖付  
 の抄 官考系圖付 官考系圖付 官考系圖付 官考系圖付

枕草子袷束抄

一卷

壺井義知

ト部の家説ホリキト一併して其経の抄 古語ハ漢家の  
 諸書ハ之古詩ハ文選文集のハ官家文章本草本朝文粹  
 詠集ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之  
 心のは集ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之  
 海抄ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之  
 海抄ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之  
 甲寅七月十七日季吟 眞字の抄 甲寅七月十七日季吟  
 名づるハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之  
 らすハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之  
 りてハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之

群書類一覽

和書類部三

此書卷首は清少納言枕草紙社衣束撮要抄と云やう目錄ハ

櫻の直衣ナカキのウ付リ下カサ袴カサ袴カサ細長ホのウ二藍アヲのウ香カのウのウ

卯ウ花ハのウ衣キのウ附キ袴カサのウ衣キのウ二ニ位イのウ袍ホのウ附キ袴カサのウ衣キのウ

六位藏人イのウ衣キのウ附キ袴カサのウ衣キのウ二ニ位イのウ袍ホのウ附キ袴カサのウ衣キのウ

蒲ウ萄カ深シのウ衣キのウ附キ袴カサのウ衣キのウ二ニ位イのウ袍ホのウ附キ袴カサのウ衣キのウ

附キ袴カサのウ衣キのウ二ニ位イのウ袍ホのウ附キ袴カサのウ衣キのウ

大口ウのウ衣キのウ附キ袴カサのウ衣キのウ二ニ位イのウ袍ホのウ附キ袴カサのウ衣キのウ

雪ウのウ衣キのウ附キ袴カサのウ衣キのウ二ニ位イのウ袍ホのウ附キ袴カサのウ衣キのウ

己上男女の装束ウのウ衣キのウ附キ袴カサのウ衣キのウ二ニ位イのウ袍ホのウ附キ袴カサのウ衣キのウ

のウ衣キのウ附キ袴カサのウ衣キのウ二ニ位イのウ袍ホのウ附キ袴カサのウ衣キのウ

のウ衣キのウ附キ袴カサのウ衣キのウ二ニ位イのウ袍ホのウ附キ袴カサのウ衣キのウ

のウ衣キのウ附キ袴カサのウ衣キのウ二ニ位イのウ袍ホのウ附キ袴カサのウ衣キのウ

のウ衣キのウ附キ袴カサのウ衣キのウ二ニ位イのウ袍ホのウ附キ袴カサのウ衣キのウ

のウ衣キのウ附キ袴カサのウ衣キのウ二ニ位イのウ袍ホのウ附キ袴カサのウ衣キのウ

のウ衣キのウ附キ袴カサのウ衣キのウ二ニ位イのウ袍ホのウ附キ袴カサのウ衣キのウ

ほろくけ草子

一卷

明恵上人

一名空化論と云り

もつろふ人ウのウ衣キのウ附キ袴カサのウ衣キのウ二ニ位イのウ袍ホのウ附キ袴カサのウ衣キのウ

徒然草

二卷

兼好法師

此書の作者兼好法師の系図ウのウ衣キのウ附キ袴カサのウ衣キのウ二ニ位イのウ袍ホのウ附キ袴カサのウ衣キのウ

和言部一

付生の素懐すくねが遠くも付着つづるなり。○近き世に土肥、経平が春  
 湊浪話みなみのなみより海を日比邊ひびより巻く冷泉が里小路の内裏と今  
 の内裏と書し。此内裏建武けんぶの六月に焼亡せしは、その内裏は  
 建武の六月に焼亡せしは、その内裏は建武の六月に焼亡せしは、その内裏は  
 建武の六月に焼亡せしは、その内裏は建武の六月に焼亡せしは、その内裏は  
 建武の六月に焼亡せしは、その内裏は建武の六月に焼亡せしは、その内裏は

衛佐えさとして、和文保の比は醍醐たいごをいひ、坊々ぼくと二条万里小路の  
 所ありや。一は、此は、仲たけの坊、坊々ぼくと二条万里小路の  
 所ありや。一は、此は、仲たけの坊、坊々ぼくと二条万里小路の  
 所ありや。一は、此は、仲たけの坊、坊々ぼくと二条万里小路の  
 所ありや。一は、此は、仲たけの坊、坊々ぼくと二条万里小路の  
 所ありや。一は、此は、仲たけの坊、坊々ぼくと二条万里小路の

徒然草抄

二卷

三安法印

此の巻は、徒然草の二巻、三安法印の筆に書し。

院の正安は正のしし書中院也是軒の奥より

野植

十三卷 林道春

古今の記述多く引かひくられは和名の故に考へしト  
部の系図はとて又名好のしし風雅集以外の採集し  
その御あけしを令剛と味は種母のししものせしり  
自序は序の神代より和名は野植ししをまらし  
草祖草野姫亦名野植と○此書上巻八冊下巻六冊合本十  
三冊と

鉄植

四巻 青木宗胡

これ八巻植の中よりぬき多く又やすしめんがよ  
からしし本ししものし上本末下本末とてり寛文十二の四月  
上木十

鉄植増補

六巻 山岡元隣

此書ハ鉄植の註ししは古今の正安は野植を  
お盤よお向解諸家圖書文段抄等の要領としし  
而温齋ししは元隣の号しし自享二の刻すし如史の跋に  
慰 草 八巻 松永貞徳

ものしし野植の説ししは古今の正安は野植を  
ししものしし○多田義後ら貞徳つしは  
みよし号す貞徳のら古今傳源氏物語の序ししは  
けししは古今の正安は野植を  
の付五箇の秘ししは  
まハ箇の付ししは源氏古今の付受ハす  
其のなを古今の箇五箇の付ししは  
まのなを古今の箇五箇の付ししは

〜抄と信成一巻と二巻と川守り〜  
長頭丸抄 二巻 同上

徒然草古今大意 二巻 四本  
此書ハヤ文極めけず 寿命院立安法印 又顔卷道春法印  
道遊軒貞徳居士 已上之家の抄の評論の〜  
兼好の〜野槌の〜入り序も真字假名も〜序槌の

徒然草金槌 十二巻 西道智  
此書同上の諸註の〜  
徒然草古今抄 八巻 大和田氣求  
毎回 愚問 鈔 野がの〜  
〜の〜巻首〜起り兼好の系図抄記より万治元〇刻

徒然草抄 十二巻 加藤盤齋  
一名盤齋抄〜了前〜抄の〜  
儒書歌書の〜  
〜都合十三巻〜  
題号 大略 等の〜  
徒然草句解 七巻 高階楊順  
此書の趣意を諸抄家〜  
〜今舊説の〜  
〜童觀〜  
徒然草文段抄 八巻 北村季吟  
此書ハ書令院抄〜  
〜章段ハ貞法〜  
百四十四段〜  
二節あり〜  
季吟〜





壽命院抄 野槌 貞化抄 盤斎抄 句解 諸家圖書 文段抄  
 諺解 慰草 古今抄 増補鉄槌 大全 参考書の諸抄抄  
 さすは書 傳記系 越路水府浅香氏山井輯 貞享五の上本す

徒然草首書 五卷  
 以書旁訓等 隱者閑詩 十五卷  
 徒然草集説 十五卷  
 以書ハ諸抄大成のほり 諸注を折中せの題名

徒然草吟和抄 五卷  
 諸抄の意に依りて 徒然草 貞享五の上本す  
 徒然草 参考 直解 吟和抄 首書 大成等 一各はきく

草繪抄 作者つぎ 五卷  
 寂實草 貞享五  
 中ふ叶間 一言の詞 評論 附す 作者つぎ 貞享五

徒然草 貞儀抄 六卷  
 高屋近文  
 卷首 兼好の事 園大層 芽七卷 芽七十二卷 大層の同 散五

徒然草 貞儀抄 六卷  
 高屋近文  
 卷首 兼好の事 園大層 芽七卷 芽七十二卷 大層の同 散五

徒然草 貞儀抄 六卷  
 高屋近文  
 卷首 兼好の事 園大層 芽七卷 芽七十二卷 大層の同 散五

他言が松子るるを... 兼好歌人の... 似るひ... 賞する... 儒釋道... 老莊の... 渠が文盲... 且神祇祠官の家... 牛一毛も... 此の如く... 蓋言... 古語本書... 又徹夜...

徒然草片玉秘事

一卷

此の如く兼好なる... 漢字の自序... 四月海南雲山人漢字の跋... 兼好の傳... 兼好集... 兼好卒所... 片玉秘事...

徒然要草

七卷

厭求上人

此の如く兼好なる... 漢字の自序... 四月海南雲山人漢字の跋... 兼好の傳... 兼好集... 兼好卒所... 片玉秘事...



和書部三

七十四

其はほまのいほのものとつらなる海依の序化はらと  
書けゆらんていれんもの他は...  
六番の目録は左の通り

- 濱いで いづれしよ
- 夢りもせ 新曲
- おーいごん 四國落
- 和田もも とがー
- 木曾領書 しげはま
- いぶさ 十番切
- 堀川夜討 あつも
- 夜討ろが ゆりも大臣
- 志田 つきー
- 常盤問答 いづの
- 劔讚嘆 なすの與一
- 元服曾我 小袖曾我
- 法一け 未未記
- 馬がゆへ 笛のま
- 大職冠上下 伏見ときハ
- まんぢり 高だち上下
- 文覚 笈こがー
- 烏帽子折ま 八島

以上三十六番の舞也

とくく 草 写本

四卷

建涼代山

涼代山諸國磁りけおる...  
この中の真らもあや...  
て雅語と...  
さしみ草

一卷

同上

此書は...のあとの...の極暑...  
せ...  
こ...  
た...  
二月上木す伴高溪の序は

和書部三

七十五





く誤つてうかまされし假名遣はらむるをりたる事と初てのや  
よらしむるれあつたかあなむりめくうしむるやまなえり  
外の術かゝらんめ齊后かゝるるめ連環よらしむるれあしむ  
めづる事推してふらんふらんしむるれあしむるれあしむ  
かゝる事契沖の枝れりてふらんふらんしむるれあしむるれあ  
ふらんふらんしむるれあしむるれあしむるれあしむるれあ  
の心材もしむるれあしむるれあしむるれあしむるれあしむ  
道個のハ實ニ兼家公に次男たりべきの辨 契沖枝の事 以上九例上  
此の事 かなひの事 此は片うれりてふらんふらんしむるれあ  
づる事 大鑑栄花ぬ語等符合の事 女君の称号 諸書に夫同の  
事 道個の位署の事 女君の詠歌勅撰の事 以上九例上 料簡  
原遇漢文 年立 保氏お徳の年立なる事 道個の成長の事 以上九例上  
以上九例下 〇中ふれ中ふりし年号はさしし道個の年齢に附するの

年号ハ天曆 天德 應和 康保 安和 天祿 天延等なり 〇昨日  
記下巻に未だ年乃よりかを夜つてふらんふらんしむるれあしむ  
昨日記の大意より契沖の事以下は人の事なるものこゝろに  
て此抄ハ附録 〇巻末より下り 〇巻首は阿波今城世傳漢文  
の序より次々其の自序も大の五の月とある

辨内侍日記 写本

二卷

辨内侍

一中之後保多院兵内侍家集 〇上巻ハ保多院の寛文四  
年正月廿九日 〇下巻ハ保多院の享徳位の事なり 書すべしめ回  
五のより宝治之年 同年建長とぬえらむる九月すべしめを  
ふりやう 下巻ハ 同年十月より 同二年四月十月すべしめを  
とるより下巻の末盡損多し 〇脱文は是の奥書に云々 此集  
後深草院 辨内侍歌多見之仍号被集 此辨内侍者 雨院冬  
嗣公一男中納言長良卿之末葉中務大輔信實息女也  
讚岐典侍日記 写本 二卷 讚岐典侍

和書部三

上卷 坂河院序 崩序のりまき 下卷 多由院序 崩序のりまき  
 大嘗会 卷末 版入り 上巻 奥出 右拜指 仙洞  
 作中 書目 之 與 清閑寺 聖相 具房 卿 一校 了 之 寛永十  
 六 念 念 二 秘 書 即 下 卷 奥 書 云 右 申 請 官 本 源 極 薦 俊  
 治 書 之 與 石 倉 中 將 一 校 了 寛 永 十 六 稔 臘 十 六 秘 書 即

方丈記

一卷

鴨長明

長明北山 雨丹 せしめ ねおけ けし ころこ せしめ けし ころこ  
 ひし ころこ せしめ ねおけ けし ころこ せしめ けし ころこ  
 廿七日の大火 治承四年四月廿九日の大風 同年六月遷都 長和の  
 比の飢饉 天曆二日の大地震のりまき けし ころこ せしめ けし ころこ  
 丈の記 ころこ せしめ ねおけ けし ころこ せしめ けし ころこ  
 のりまき ころこ せしめ ねおけ けし ころこ せしめ けし ころこ  
 ころこ せしめ ねおけ けし ころこ せしめ けし ころこ  
 ら せしめ ねおけ けし ころこ せしめ けし ころこ

方丈記 諸書

二卷

山田元隣

他者つぎ ころこ せしめ ねおけ けし ころこ せしめ けし ころこ  
 せしめ ねおけ けし ころこ せしめ けし ころこ  
 ころこ せしめ ねおけ けし ころこ せしめ けし ころこ  
 ころこ せしめ ねおけ けし ころこ せしめ けし ころこ  
 ころこ せしめ ねおけ けし ころこ せしめ けし ころこ  
 ころこ せしめ ねおけ けし ころこ せしめ けし ころこ  
 ころこ せしめ ねおけ けし ころこ せしめ けし ころこ  
 ころこ せしめ ねおけ けし ころこ せしめ けし ころこ  
 ころこ せしめ ねおけ けし ころこ せしめ けし ころこ  
 ころこ せしめ ねおけ けし ころこ せしめ けし ころこ

方丈記 諸書

二卷

加藤盤齋

方丈記 諸書 ころこ せしめ ねおけ けし ころこ せしめ けし ころこ  
 ころこ せしめ ねおけ けし ころこ せしめ けし ころこ  
 ころこ せしめ ねおけ けし ころこ せしめ けし ころこ  
 ころこ せしめ ねおけ けし ころこ せしめ けし ころこ  
 ころこ せしめ ねおけ けし ころこ せしめ けし ころこ  
 ころこ せしめ ねおけ けし ころこ せしめ けし ころこ  
 ころこ せしめ ねおけ けし ころこ せしめ けし ころこ  
 ころこ せしめ ねおけ けし ころこ せしめ けし ころこ  
 ころこ せしめ ねおけ けし ころこ せしめ けし ころこ  
 ころこ せしめ ねおけ けし ころこ せしめ けし ころこ  
 ころこ せしめ ねおけ けし ころこ せしめ けし ころこ

方丈記 流水抄

二卷 一本

模島昭武

長明の履歴 方丈のり 長明著述の書目 眞偽



のり 系圖等何あけりやふけははは出よとせり ○此記流布の本々の八巻末に終るる

月けい入られども... 昭宗の御記... けり不断光佛の御記... 係季廣... 横島昭武著... 富士御覽記 写本 一卷

富士御覽記 写本 一卷  
普光院義教公富士山侍従の為駿河の國よもあせられたる... 依奉の人の詠歌... 柴屋軒宗長記 写本 一卷  
大永六の五月宗長北地旅りの日とて... 釋宗長

同元年... 今... のり老の... 宗長九の記 写本 一卷 同上

大永六の五月より同七年十二月までの... 宗長八十... 行の... 行の...

和文類

扶桑拾葉集

二十卷 三十五本

西山公御撰 古今の和文三百十三篇 初載せられたり 扶桑拾葉集 親王の所序 西院の勅撰 卷首に兵部卿幸仁 表より別な系圖一卷 著者 作者の家系初たり

卷第一

古萬葉集序

嵯峨天皇

後拾遺和歌集序

友系連俊

新古今和歌集序

友系良経

續古今和歌集序

友系基家

新葉和歌集序

宗良親王

古今和歌集序

紀貫之

千載和歌集序

友系俊成

新勅撰和歌集序

友系定永

風雅和歌集序

花園天皇

新後拾遺和歌集序

友系良基

新編古今和歌集序 友永兼良

卷第二

家の集乃内 紀貫之

土佐日記

大井川行幸和歌序 日

卷第三

遠江道記 日

庚申夜奉和歌序 源順

又 天祿歌合序 源為憲

又 行幸高陽院應制和歌序 善處為政

又 家の集乃内 應詔和歌序

又 批草紙跋

卷第四

亭子院歌合日記 伊勢

家の集乃内 桂橋姫

蟻通の神事 和歌序 日

熊野記行 釋增基

子日行幸和歌序 平兼盛

家の集乃内 曾根好忠

又 日

又 日

又 跋 加茂保憲女

又 家の集乃内 楠正通

又 應詔和歌序

又 紫式部日記 紫式部

卷第五

卷第六

家集の序

さしつかの記

卷第七

九月十三夜於前武傍泉亭詠和歌序 日

悦目抄序

大いしのみ序

奥儀抄序

撰集抄序

卷第八

高倉天皇升遐の記 日

卷第九

日 後序

和泉式部日記

家集の内

家集の内

新注松遠序

てな抄序

一字傳序

後葉和歌集序

水いのみ序

定家公の書文

巖島所幸の道の記 日

古来風作抄序 友永後成

正治奏状

卷第十一

清原濯川哥合序 日

日吉七社歌合序 日

住吉歌合跋 日

家の集乃内 右京大夫

艶詞 日

卷第十

蒙求和歌序 係先乃

俊成九十賀記 係系長

賀茂大明神の事 百首和歌序

奉納聖霊院和歌序 日

早卒露膽百首跋 日

色葉和歌集序 日

土御門天皇よ奏了之 友系系隆

發心集序 鴨長明

五社百首序 日

同跋 日

民部卿家歌合跋 日

安元侍賀の記 友系隆房

和歌色葉集序 秋原昭

百詠和歌序 日

愚管抄序 秋意田

老若和歌序 日

少納言基長紙牌の辞 日

百首和歌跋 日

控中納言定家下賜了之 日

堂玉集序 日

方丈記 日

卷第十一

遠島御歌合序 日

島より此序又 日

宮河歌合跋 日

長編百首の傍より七の辞 日

人けりしはくせし人 越部程尼

父介 柯序 係通光

弘長歌合序 友系系系

古今著聞集跋 楊成季

卷第十二

夜の記 日

野もりのみ序 係有房

千五百番歌合勅判序 後鳥羽天皇

新古今和歌集跋 日

家隆の事 日

和歌初心抄序 日

東関記行 係親行

七十番歌合跋 友系光俊

室治歌合跋 日

了たの 日

竹大納言の家々五七日の歌文 日

隣女集序 友系雅有

源氏論義序 係具承

群書目一覽

和書部三

八十三

同跋

卷第十三

石清水内侍日記 貞徳天皇

李花集乃らり 宗良天皇

又

又

千首和歌序

卷第十四上

あひはりの日記

筑波向合序

卷第十四下

雲井抄法

都のつと跋

中務内侍日記 中務

賀茂社所形去

名和長年ふたし初書 貞徳天皇

又

又

又

位をまゝして 保義院

年中行事歌合序 友永良基

嵯峨野物語序

小島の口すし

柳葉日記

愚問賢答序

雲井の花

白鷹記

人々ゆきつり

卷第十五

高野日記

都のつと 新宗久

落書抄序

道心きこぶ

卷第十六

伊勢大神宮参詣記 坂士佛

卷第十七

北山行幸記

卷第十八

仙源抄跋

あしこけの序

さよの補ふえ

筑波集序

愚問賢答跋 新極河

骸骨の繪の替 新宗久

言塵集序 保貞世

鹿苑院准后義満公嚴島詣記

河海抄序 保成

源氏物語提要序 保範以

相國寺塔供養記 友永長記

七百番歌合序 友永長記

西取記

鹿苑院准后義満公松崎

後小松天皇升遐の記

卷第十九

卷第二十

春宮の崩しは花園をせしむるの記

世鏡抄跋

文明歌合序

三源一覽序

魚山の吟法

卷第二十一

文安詩歌合序

年送の序

南都百首序

草根集序

歌林良材集序

富士記行

椿葉記

富士記行

山々の記

和歌入序

慈照院准后義政公自歌合跋

五月雨記序

嘉吉二年歌合序

雲井の春

花鳥餘情序

友川の記

古今童蒙抄序

祇園の記序

教養考

長崇光徳

友系雅世

貞常叔王

友系雅叔

邦子叔王

友系兼良

翻修念佛記序

竹林抄序

卷第二十二

法乃ひら

山のふみ

卷第二十三

春重槐実隆の詠月和歌序

草の記跋

ますりみ序

夢菴記

雪の西芳寺に花了辞

卷第二十四

詠月和歌序

細川右京大夫自歌合跋

仙洞歌合跋

世諺問答序

寄花述懐和序

関東海道記

春重槐実隆の日記

春重槐実隆の慰子失妻和歌序

世鏡抄序

新百人一首跋

三愛記

雲井の吟法跋

勅了のよく發句打の記

及堅法の自歌合跋

中原遠忠自歌合跋

秋心傲

友系兼備

秋道真

友系実隆

慰恭議基綱卿失妻餘哀和歌序

きぬのき日記跋

住吉記行

卷第二十五

世諺問答跋

七十賀和歌序

高野山奉請記

武花堂記行

卷第二十六

妻初のめ和歌序

百首和歌序

清見の記

長源院とつめ辞

雅春卿初のめ辞

名香合跋

資直卿和歌序

快祐法印七回忌和歌序

秘抄序

三塔順禮記

石山月見記

永祿歌合跋

桂林集序

心珠詠藻序

称名院右府七十賀記

嗟賦記

昌叱とつめ和歌序

右末冬

平氏康

右末資定

右末實枝

右末植通

右末公條

右末公玄

右末實枝

右末植通

右末公條

右末公玄

右末實枝

右末植通

光源院贈左府追善三十一字和歌序

からしとつめ松の記

闕疑抄跋

卷第二十七

贈太政大臣信長公初悼辞

太陽院初のめ辞

かやぐき

代賀豊州挽辞

又

陽光院三十三回忌追善の辞

仁陽成天皇升遐の記

卷第二十八

仁陽成天皇初悼辞

教皇後

九州道の記

夢想記

岷江入楚序

贈左大臣義晴公と悼辞

准后道澄法親王初悼辞

友系之法初のめ辞

夕顔巻辞

与賀古宗隆辞

如仙法初と悼辞

真法親王

式部智仁親王初悼辞

日光山記行

道の記

保友者

保通務

保友者

保友者

保友者

保友者

保友者

保友者

保友者

保友者

保友者

保友者

春の曙 〇  
 式部卿智仁親王御持り、和歌序 〇  
 三島明神法華院御持り、和歌序 〇  
 萬里江山石の記 〇  
 目こやーま、跋 〇  
 ねもね天皇四百十年所志所廟奉請記 友承氏成 〇  
 後陽成天皇御持り、辞 〇  
 同 友承氏成 〇  
 花見の記 〇  
 医の浄海院の辞 〇  
 浅間の記 〇  
 あごゆ、跋 〇  
 百橋園序 〇  
 式部卿親王御持り、和歌序 良忍住持主 〇

卷第二十九上  
 朝ほけりけ 〇  
 さかご、跋 〇  
 大井川道遠記 〇  
 卷第二十九中  
 五妻の道の記 〇  
 東山の家記 豊臣播佐 〇  
 西山の家記 〇  
 春の山ふみ 〇  
 九州のたの記 〇  
 さかめてあつまひきけ、道の記 〇  
 畷山まきで、辞 〇

花山のあくと 〇  
 妙善院よほす、辞 〇  
 松平越中ちのらす、辞 〇  
 道春法印よつらす、辞 〇  
 妙善院餞別 〇  
 永喜法印餞別 〇  
 卷第二十九下  
 道系餞別 〇  
 祖母のよひな、辞 〇  
 玄旨法印のたの、辞 〇  
 林叔勝のたの、辞 〇  
 たきのまご、辞 〇  
 かゝけのこ、辞 〇  
 卷第二十  
 ぬすく、木柄、辞 〇  
 稻葉内匠よほす、辞 〇  
 那波道名よつらす、辞 〇  
 佐川田の何よつらす、辞 〇  
 春日代所つほの餞別 〇  
 心意法橋餞別 〇  
 後陽成院崩所と持り、辞 〇  
 妙善院のたの、辞 〇  
 稻葉丹のたの、辞 〇  
 〇のたの、辞 〇  
 きかり、衣 〇  
 辞、世 〇  
 女御のたの、辞 友承幸家 〇



肥後、分、河、の、辞、友、子、の、系

於、長、嘯、亭、催、花、宴、和、歌、序、口

報、源、光、一、詩、歌、序、口

九、月、十、三、夜、和、歌、序、口

仙、洞、御、色、紙、記、口

暖、城、遊、覽、記、口

関、東、海、道、記、口

友、松、の、め、和、歌、序、口

扶、桑、拾、葉、別、集、写、本、三、卷

何、人、の、撰、り、し、り、な、り、し、り、亡、友、江、田、世、恭、く、不、死、し

上、卷

圓、融、院、扇、合

長、元、八、年、殿、上、歌、合、記、作者、不、知

寂、勝、四、天、王、院、名、所、障、子、和、歌

惺、富、文、集、序、口

奉、納、菅、廟、詩、歌、序、口

又

日、光、山、法、華、八、講、記、口

八、瀬、詞、口

成、元、餞、別、記、口

前、の、相、分、松、竹、和、歌、序、口

宇、治、真、聖、禪、寺、記、口

三、卷

友、江、田、世、恭、く、不、死、し

東、三、條、院、撫、子、合

珍、言、集、跋

風、葉、集、序

新、濱、木、綿、和、歌、集、序

舞、御、覽、記

陽、祿、門、院、卅、三、回、忌、記

中、卷

大、嘗、會、記

め、の、よ、め、ゆ、ゆ、ゆ

新、撰、筑、波、集、序

枕、草、紙、跋

下、卷

十、訓、抄、序

紫、葉、明、抄、序

奥、州、後、三、年、記、序

同、跋

釋、門、三、十、六、人、歌、仙、序

水、魚、瀬、殿、哥、合、跋

寺、持、院、八、講、記

北、山、院、御、入、内、記

春、日、社、奉、記

續、五、明、題、和、歌、集、序

艶、詞

秋、風、抄、序

新、自、讚、哥、序

連、珠、合、璧、集、序

善、光、寺、紀、行

小、野、春、雄

後、河、津、の

梵、灯、房

法、下、光、惠

北國紀行

芝草 同序

奉納往吉連歌序

連歌比技集序

和希菴禪師詩韻和歌序

拾遺後葉集序

目録一卷附す巻首の漢字の題言

續集の擬して撰つたの題言

の二科とてす菊合扇合撫子合

日記後醍醐帝年中日中行事

記等ろけ文長短

侍日記抄採録の例

の二三其餘ハハ

の乃ハハ

海道記

種玉篇次抄序

わりまの記序

多良改の記序

和歌序

二十四卷 二十六本 江田世恭撰

扶桑拾遺集の

此編の別行草録

護岐典侍日記

兼惠心廣宗牧宗長記

皆係せ收め

此系和泉中勢内

侍日記抄採録の例

卷第一 別行

寛平菊合

東二條院撫子合

鷹司祢念院殿春秋抄

卷第二

卷第三上

卷第三下

卷第四

同日中行事

卷第五

後醍醐天皇及永和天皇御記

寛治二年歌合

圓融院菊合

天徳歌合假名記

道範阿闍梨南海流浪記

讚岐典侍日記

辨内侍日記

後醍醐帝假字年中行事

元徳行幸記

寛正五年御遊の記

卷第六

元惠東海道記

卷第七

東素純筆れすし

卷第八

卷第九

日老のひづと

卷第十

日手記

卷第十一

清少納言松島日記

宗長宗祇終焉記

卷第十二

小坂遠州侯東海道記

北野梵燈庵主向答 秋忍書

明空撰要目録

姉小路基綱の若草

日比正房日記

宗牧東國紀行

宗長九ノ記

宗長筑紫記

願書 定家

澤菴和尚鎌倉紀行

紹巴富士紀行

卷第十三

卷第十四

卷第十五

實條公閑東下向記

同訪山家友記

實業卿高雄記

同嵯峨記

卷第十六

大中臣能宣家集自序

顯季卿俊頼朝臣贈答文

通方卿續古事談跋

御書衣濯川集序 作者可考

源氏物語供養表白

素寂紫明抄序

元政上人身延道記上下

似雲奥州紀行上下

宗雅越前下向記

雅章卿芳野記

實種卿御庭拜見記

為村卿柿本影供記

壬生忠岑大井川行幸序

頼朝卿与範頼文

清輔朝臣尚書會記

家長朝臣新古今跋

風葉集序

鷹司圓光院殿續後撰上帖序 作者可考

如大厄假名法語

順河十樂菴記

猶葉集跋同上

董物方書序作者可考

源氏千鳥抄跋

救濟連歌抄跋

榻嶋覽筆序

景房多宝塔建立勸進狀

卷第十七單錄中

道遙院前内府卷妙華寺殿下歌序

同八景和歌序

宗祇百人一首抄跋

同悼宗椿歌序

道遙院殿源氏系圖跋

送珂憶上人序

仁和寺競馬記作者可考

茂範卿唐鏡序

職人盡歌合序

心敬僧都連歌抄跋

榮海僧心釋門歌仙序

住吉社司夢想註進狀

新筑波集序

下冷泉持為御百首跋

夢菴長正百首跋

祇名院右府卷冷泉黃門歌序

宗鑑老の春

宗祇自贊歌註跋

大江元就集跋

道澄准后鳥津入道百首跋

遊行他阿上人弄花抄跋

道晃法親王家集の内

同里亭吉田座序

長松軒惟翁千年山八境記

後十輪院前内府御製十三首跋

卷第十八單錄下

風早公長卿名香記

實業卿子正木水弘歌序

鳥丸光雄卿極電香燈記

溪雲院前内府硯銘

同長柄橋柱文其至記

義尚公多田院奉納和歌序

東求院殿下近江八景歌序

信長公賜布施藤九郎書

後西院御製鳳足硯記

鳥丸資慶卿泉涌寺御法事記

西山公贈朴公翁辭

道晃法親王女院御色紙跋

清水谷又業卿牡丹花序

有栖川幸仁親王贈水弘歌序

公長卿同

日野弘資卿硯銘

同橋立香燈記

同芦田鶴笛記

同龍浪筆策記  
 東久世博高卿同  
 重永手卿高雄山記  
 風早實積卿同  
 同千歲藤記  
 同夏衣和香木記  
 同与津田氏女辭  
 同弘川古積種花記  
 柳原光細卿含雪盆石記  
 同種香箱銘  
 同遊八瀬里記  
 同与小出信濃守詞  
 不昧心院前内府東行記  
 光宗公示祇水記

冷泉為綱卿織物手鑑序  
 中院前右府曾根松記  
 油小路隆負卿清和院僧正十賀歌序  
 同長柄橋柱文基記  
 同布留鳥居硯箱記  
 同葛城百首跋  
 同似雲窓の曙跋  
 石山師香卿茶松記  
 實際公雪嶺盆山記  
 同修学寺行幸記  
 同興福寺再建勸化疏  
 良恕法親王のせいの道志  
 木葉集跋 作者未知  
 同碧梧亭記

同示松井生辭  
 同長柄橋柱硯蓋記  
 九条殿下白峯奉納歌序  
 卷第十九 補選  
 晚華集序 僧契冲  
 住吉社奉納の奥書  
 柿中の神樂  
 八朔十五夜名不月和歌序  
 壬子試筆の詞 室直法  
 卷第二十  
 よしの花の記 昭来  
 橙子香合記 日野弘資  
 むらけ早とせ  
 卷第二十一

同西蓮追善歌序  
 烏丸光胤卿贈字佐六宮司歌序  
 同月輪殿追善般若心經跋  
 暮露草紙 作者不知  
 林葉累壘集序 下河邊長流  
 橘正成傳贊  
 野田菰の記  
 東武再往日記 菰井惟存  
 閑谷集序 作者不知  
 東紀行 菰正喜  
 賀六十和歌序 今井似系  
 四十賀記  
 関東下向記 小坂政一

丙辰紀行 林道春

卷第二十二

奉納百首跋 下河辺長流

漫吟集序

得梅移植時謝本主詞

詠紅葉文松和歌序

人丸開眼初人の打り

賀婚姻詞

惠心僧都園画記

代近記序 成島信通

詩園の序

三宅良親興行和歌序

奉祇園社百首跋

盆石記

答富島利真公羽文 伊友長胤

萬水一露序 松永自徳

奉悼妙喜院辭

詠慶賀百廿首序 傳英冲

贈浅小井氏詞

詠昇仙石和歌并序

吊喪立因詞

源註拾遺序

餘材抄序

詠廿日月和哥并序 平月長春

与念悦法師詞

退居久安寺詞 平間長雅

吊母喪詞

住吉奉納千首和歌序 有賀長伯

川井法橋夢想啓和歌序 羽園宗名

賀西山氏六十詞 川井五教

翁の文序

桂山集自序

卷第二十三

春の紀行 成島信通

回國雜記序 法保杜多

東の紀行

假名文字書目様大意序 渡辺素重

東野州圖書序例 作者不知

光源氏一部哥詞序 睡翁

假名句題和歌抄序例

風塵記 上中下 平間長雅

夕日山記

岡西五十回追福和歌序 川井五節

玉津島紀行

悼元亮和歌并序

高野山紀行 鳥丸資重

書林の序 奥野保悟

告天満宮文 西山宗因

有馬両吟五百句序 西順

追悼百韻序 岡西惟中

一子御抄序

愚向賢注六密抄跋

百人一首改觀抄序 樋口宗武

新古今和歌集増抄跋 加藤繁斗

卷之二十四

日光山供奉私記 上下源和典  
自賛序 口上

又 奉悼玄旨法印文 ねふまか

○按ずれば、この序の字は、川流の一篇、後世に才四巻の文、乃、  
撰者の名、河、り、と、す、新、教、を、の、り、は、陀、佛、序、り、を、未、  
し、安、永、丁、酉、十、一、月、有、系、忠、虎、漢、字、の、跋、り、は、扶、桑、拾、葉、集、の、  
中、其、餘、の、文、章、抄、篇、と、の、く、文、體、河、ら、収、む、

文乃采

七卷 八本

古今和歌集序 紀貫之  
新古今和歌集序 友永貞任

拾遺和歌集序 友永通佐

卷之二十一

續古今和歌集序 友永基家

庚申夜奉和歌序 保川

九月十三夜前武衛泉亭和歌序 〇

風葉和歌集序

御裳濯川歌合序 友永佐成

卷之二 物語序

大鏡序 友永為葉

増鏡序 友永冬良

十訓抄序

卷之三 歌話序

奥儀抄序

筑波同冬序 友永良基

和歌色葉集序 叙取

父子相迎 上下 向阿上人

宇治の川流 作者不知

家集の内 津子国基

後醍醐天皇御改まなむ文 後醍醐天皇

新勅撰和歌集序 友永基家

大堰川行幸和歌序 九巻

子日行幸和歌序 平兼盛

天禄歌合序 保の定意

遠島御歌合序 友永保成

水鏡序 友永忠親

愚管抄序 叙意四

悦目抄序 友永基佐

筑波集序 〇

殿上根合序

卷之四 記類

亭子院歌合記

宗祇終焉記

卷之五 記行

熊野詣記行

泊瀬記行

石山記行

卷之六 跋類

枕草紙跋

室物集跋

宗久旅日記跋

卷之七 雜文

奉儀通神和歌序

贈京極黃門卿文

伊勢

宗長

俊成九十賀記

宗長

教增基

後白河

尾張記行

辛嶋記行

高野記行

宗長

宗長

借少納言

平康光

百首和歌跋

古來風体抄跋

宗長

宗長

宗長

宗長

乳母の文

盜我木辞

宗長

宗長

筑前中納言秀秋餞別  
辞世

骸骨繪贊

宗長

歌文要語

天地季候人衣食家居器志旅生類草木

神佛おの類

其の類

葉催馬樂土佐日記古今集其餘物語類

其書

と

代

長

後

編

和書部三

和書部三

九十五



これハ源氏物語の代文... 君... 又母... 白

白... 子... 白... 白... 佛... 白

白... 白... 白... 白... 白... 白

白... 白... 白... 白... 白... 白

白... 白... 白... 白... 白... 白

白... 白... 白... 白... 白... 白

白... 白... 白... 白... 白... 白

白... 白... 白... 白... 白... 白

白... 白... 白... 白... 白... 白

賤ニ擬セリ... 寛政五年... 如人真字の序上田松成

記行類

土佐日記

一卷

紀貫之

貫之土佐守より延長八年、依國下り、六年の辰平  
 五年、任をて、京へ向う時の記なり、此文のむきも、  
 長らく、季吟のおろそ、土佐日記一卷、善本あり、但、  
 其、勇、ち、の、文、暦、二、年、ま、五、月、十、三、日、し、  
 不慮之外、見紀氏自筆之本、蓮華院室藏本、  
 尺一寸三分計、廣一尺七寸三分計、紙也、其、抄、軸、表、紙、續、白、紙、  
 一枚、端、聊、折、返、不、立、竹、魚、軸、有、外、題、土、佐、日、記、貫、之、筆、其、書、様、和、平、  
 行、定、行、書、之、聊、有、欄、字、哥、下、魚、欄、字、而、書、後、詞、不、堪、感、興、自、  
 書、写、之、昨、今、二、々、日、終、切、業、門、明、靜、明、靜、ハ、定、家、の、法、名、

或は山や乃の老人難治... 貫之の自筆本... 故將軍舊物希世の重宝也今なき者自少阿...

群書一覽

九本

府借之遂一覽 依或人数寺深切書之古代假字猶斗未定臨  
写有魯魚字後見筆家之而已明應士子仲秋候垂槐藤原  
之妙壽院之惺窩先生のゆ

土佐日記附注 卷首之紀氏の系圖官位のゆが奉林道春の貫之の傳と

のせ法之貫之之作の新撰和歌集の序大井川行幸和歌の序... 又讀耕齋林氏の序... 日記のほらた季吟のおのりせ...

群書一覽

和書部三

九本

のめりしれ後の方は四巻にわたりて季吟抄の終り  
万は四巻にわたりて季吟抄の終り

土佐日記抄

二卷

北村季吟著

巻首は書題号に京極黄門の奥書妙壽院の奥書  
とのせ巻末は季吟の序に附す

寛文元年五月刊行す

土佐日記首書

二卷

土佐日記首書  
書作者の名は記しなくす  
宝永四年五月刊行す  
藤原宇万伎

字万伎ハ賀茂真淵のつら  
と用ひしり  
明和五年七月刊行す  
上田秋成著  
日記諸巻の序に附す

須麻石記

写本

一巻

菅家の作化しりて世に伝へる  
菅神は  
菅家の作化しりて世に伝へる  
菅神は  
菅家の作化しりて世に伝へる  
菅神は

うきなるまゝに  
とや

松島日記 写本 一卷

はかゆきの化... 松島日記... 写本... 一卷...  
はかゆきの化... 松島日記... 写本... 一卷...  
はかゆきの化... 松島日記... 写本... 一卷...

あまの... 世に... 松島日記... 写本... 一卷...  
あまの... 世に... 松島日記... 写本... 一卷...  
あまの... 世に... 松島日記... 写本... 一卷...

十一 阿佛尼 一卷

阿佛尼... 阿佛尼... 阿佛尼... 阿佛尼...  
阿佛尼... 阿佛尼... 阿佛尼... 阿佛尼...  
阿佛尼... 阿佛尼... 阿佛尼... 阿佛尼...

長明道の記 一卷

此記の... 長明道の記... 長明道の記...  
此記の... 長明道の記... 長明道の記...  
此記の... 長明道の記... 長明道の記...

下...を建曆元...仁徳...  
東鑑河...長明の...  
東鑑記行...人あやま...  
長明海道記 一巻 二本

長明の他...西推...  
鴨長明が海道の記世  
奉...長明...  
やの...ね...志...

東關記行 一巻 源親行  
これ...扶桑拾葉集...  
明の...の記...

藤川の記 二巻 一条禅岡兼良公  
一名...の記行...  
た...の...の記...

宗長西國紀行 写本 一巻

宗長は...文明十二年...  
記行...  
廻國雜記 一巻 准后道真親王

一名宗祇田園記...  
文...の...  
...の...

広日記 写本 一巻  
広ハ...の...  
...の...

時...の...  
普光院...  
政の...  
...の...

身延記行

二卷

深草元改

元改より八十餘歳の母河内守の身延山へまゐりて身延記  
の記せりはるあまの御子の新珠持かゝるものなり

鎌倉記行

一卷

澤菴和尚

鎌倉遊行のともと歴代の遷り感一專五山の衰廢

温泉遊草

深草元改

温泉の記其外詩文和歌と

春の曙

一卷

鳥丸光廣卿

寛永乙亥の鳥丸大納言光廣の関東下向の乃の記  
は記のくはめは二月十日花きの曙の如くとありて  
とてはて二条左相府春の曙の如くはてと名づけし

付らぬ奥の事

窓の曙

二卷

似雲法師

享保十五庚戌の似雲法師の富士山のけしき  
とて並河五一郎の志はしをけし伊豆の島か  
見の西嶮の草菴の道に記する神は十日の  
西嶮の草菴の道に記する神は十日の

くちの記写本 一卷 鳥丸光栄公

延喜二年光榮公関東下向の道の記なり 卷首よ

延喜二年光榮公関東下向の道の記なり 卷首よ

修学院御幸宸記 写本 一卷 靈元法皇

享保六年十月同七年壬三月同年九月同八年四月同  
年九月同九年八月同年九月同十年四月同年九月同年  
十月同十一年四月以上十一箇度修学院の別荘御幸の記と  
しりてしるす

道ゆきふり 写本 一卷 賀茂真淵

其淵にゆきふり故つゝの遠物像にけむ及のみの記なり 巻よ  
西帰と標して京より遠物へゆきふりの記を附すけし  
いんすの古記を古事引と考ふるす

菅笠日記 二卷 本居宣長

明和九年の春宣長吉野花子の記なり

東奥記行 一卷 長赤水

水戸の長赤水の奥抄の記なり 長赤水  
の標はありて記中ね島の事詳しきなり 図を附す  
しりて奥に北越寺記ありしりてのくすの圖との  
すの書 多賀城碑 御島碑 燕澤碑 野州那須  
郡國造碑木の図記釋文等充つしりて 寛政四年十

詞林意行集 六卷 宮川一翠子

記行の文似東西南北よりしりて和文はなれり

卷之一 東方 都乃つゝ 華紫宗久

卷之二 宗祇終焉記 秋宗長 小島のすゝみ 二条良基公



卷之三

東國陣道記

細川幽齋

卷之四

石山記行

以房和尚

東山道記行

那波良春

東行雜詩

平巖仙桂

遊醍醐寺詩

卓山元政

膳所記行詩

菅原玄因

卷之五

西南方

自尾州執田至藝陽廣島路行之詩

梁南和尚

藝陽道行詩

和石州山材藝陽途中詩

遊有馬温泉記行

同和歌

遊有馬温泉記

南州記行

南行詩

南行詩

東道の記

仁和寺子房

東関記

以房和尚

石山記行

西之条三條公

石山詣の記

和永貞松

江府記行

小出栄房

江東吟稿

口

遊神明山記

雪堂居士

吉野花見記

加茂磐舟

卷之六

北方

甲辰記行

口

大原記

右馬大夫

大原和歌

美川一翠子

拾遺意行集

一卷

巖島詩日記

南遊詩

吉野詩記

己巳行記

今石山水記

今川了俊

策彦和尚

平巖仙桂

隱岐記行

水光院氏成

渭北吟稿

平巖仙桂

丹後海陸順遊日録

和田宗光

大原記行詩

仙桂歌

